

2022年3月18日

ロシアの友人へ

NEANET 顧問
花田 磨公

新潟から飛び立ち 40 分でウラジオストクに着いて、沿海州の迎賓館で、北東アジア諸国の代表とともにロシア代表の友人たちと北東アジアの未来について語りあったことがあります。日本の隣人として、ロシアの友人は言いました。「北東アジアでの試みは失敗する。なぜなら言葉も、食べるものもみなちがうからと米国の雑誌に書いてありました。だとしたら、一層結束して北東アジアの未来を拓く事業を成功させましょう。」と。忘れられません。以後 19 年私たちの友情は続いて来たとは私は信じています。ロシアの隣人は小国に理解がある人たちといたくて、今日まで期待してきました。

しかし、プーチン氏が始めたことには、心底から驚きました。大ロシアが圧倒的な軍事力をもって、信じられないことにウクライナの一般市民を攻撃している姿が毎日テレビ画面上に見られています。それが連日続いています。世界はスマホ社会にはいり、いとも簡単にその日の虐殺を見えています。戦国時代のドラマを見ているような感覚です。これはわれわれの隣人の仕業であると思いたくありません。プーチン氏 1 人の暴挙と思いたいです。どうか友人のみなさん、多数の力をもって、このむごいプーチン氏の暴挙を止めてください。ほとんど丸腰のようなウクライナに多数の戦車を並べて侵攻してくる姿は醜いです。世界は誰 1 人応援いたしません。

プーチン氏は言いました。ロシアはウクライナに文化的なノスタルジーがあると。それは理解します。かつてモンゴル帝国のヨーロッパ侵攻を防ぐべく、ローマ法王はフランシスコ修道会のプラノカルピニをモンゴルのカラコルムに派遣しました。モスクワの東 200 km のウラジミールでキエフへ行くよう勧められ「ロシアの首都キエフへ行った」とありました。ロシアがウクライナという時代があったのですね。だとしたら、なおさら、そのような大事な歴史的都市を砲撃するなど理解できません。ただちに侵攻をやめるべきです。ちがいますか。

そして、絶対許されないのは核恫喝をしたことです。戦略核と戦術核を区別して戦略核は悪だが戦術核はありとの風潮がひろがりつつあります。プーチン氏はアメリカと NATO を恫喝したのだから是との考え方もあるかも知れません。アメリカと北朝鮮も核恫喝をしているのですから。しかし、広島、長崎、ビキニ環礁、福島第一原電の悲劇をこの島国で被り続けた私たち日本人には、核は悪です。絶対的な悪です。核廃棄物の処理に無限にも近い時間がかかることを思えば悪魔です。核保有国が核非保有国との闘いに核の使用を示唆するなど、プーチン氏は普通の善意の人間の心を失ってしまったとしか思えません。なんとしてもプーチン氏の心にやどる悪魔を追い払ってください。

ロシアの友人のなかには勇気ある人が多数いることを信じます。反戦運動の広がりもそうです。モスクワ国営放送の方々もそうです。私はロシアの友人の善意を信じたいと思います。がんばってください。

以上